

呉市地域公共交通ビジョン（案）の概要

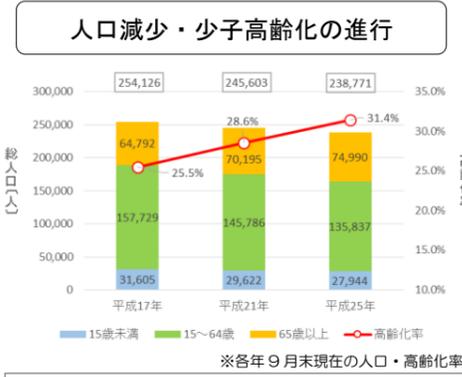
1 趣 旨

鉄道や路線バス、生活バス及び生活航路等で構成される市域の公共交通は、人口減少や少子高齢化、モータリゼーションの進行等の影響により、利用者の減少傾向が続く中、交通事業者の経営努力だけでは、持続的・安定的に維持・確保していくことが困難な状況となっています。

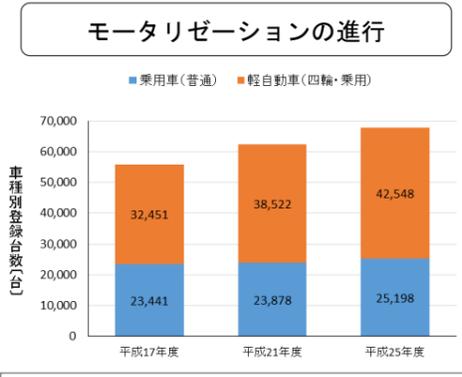
本市の公共交通を取り巻く情勢が厳しさを増す中、真に持続可能な公共交通体系を構築するため、市民、交通事業者及び行政が一体となって取り組むべき本市の交通政策の指針となる「呉市地域公共交通ビジョン（案）」（以下「ビジョン案」という。）を策定します。

2 公共交通の現状と課題等

(1) 社会経済情勢の変化と公共交通の現状



※平成25年の市の人口は、平成17年に比べ、15,355人減少し、高齢化率は5.9%上昇



※平成25年度の市の車両登録台数は、平成17年度に比べて約1.2倍に増加



※JRと路線バスの利用者数は、平成17年度以降、JR・路線バスともに減少傾向

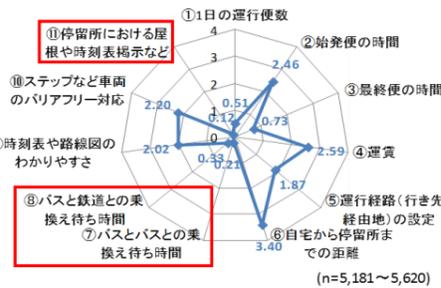
(2) 公共交通の利用実態と市民の移動ニーズ

交通手段の分担率

	買物 (n=11,806)	通院 (n=6,098)	通勤 (n=2,905)	通学 (n=614)
自動車(自分で運転)	36%	28%	33%	3%
自動車(家族や知人等が運転)	14%	11%	4%	8%
原付・自動二輪	6%	4%	9%	1%
バス(路線バス・生活バス)	25%	36%	22%	31%
乗合タクシー	1%	1%	0.4%	0.2%
JR	3%	5%	11%	19%
船舶(フェリー・高速船)	0.1%	0.2%	0.4%	0.2%
自転車	11%	7%	8%	11%
徒歩	18%	20%	10%	21%
タクシー	2%	4%	-	-
路面電車	0.2%	0.3%	1%	1%
無料送迎・スクールバス	0.1%	1%	-	2%
その他	1%	1%	1%	1%

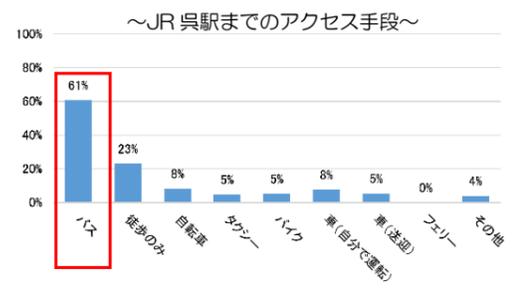
※市民の日常生活における移動手段は、通学及び通院を除き、自動車が主流

路線バス及び生活バス等の満足度



※停留所における上屋や時刻表掲示、バスとJR、バスとバスとの乗換え待ち時間の満足度が低い。

JRとバスの乗り継ぎ状況



※呉駅では約6割(広駅・新広駅では約3割)の人がJRとバスを乗り継いでいる。

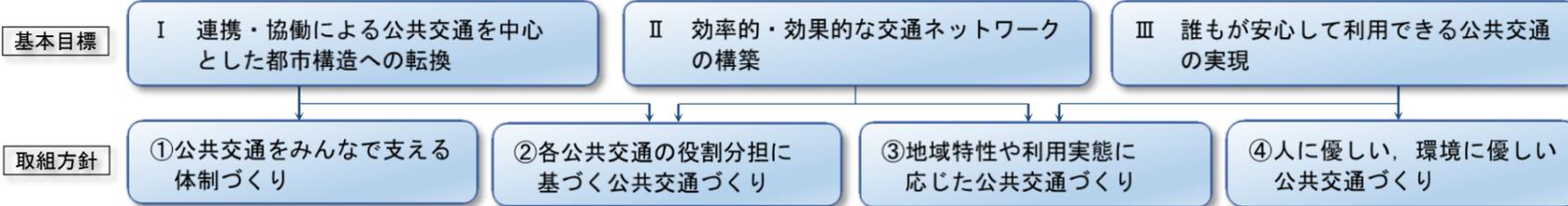
(3) 公共交通が抱える課題と課題解決に向けた方向性

公共交通が抱える課題	①公共交通利用者の減少	②拠点間を結ぶコンパクトなネットワーク	③移動ニーズに応じた公共交通体系
課題解決に向けた方向性	利便性向上と利用促進による、「利用減による悪循環」から「利用増による好循環」への転換	将来のまちづくりを見据えた公共交通の有機的な連携による「交通ネットワーク」の構築	公共交通の役割分担と個々のニーズに基づく移動手段との連携、地域に最適な交通手段の導入

3 ビジョン（案）の概要

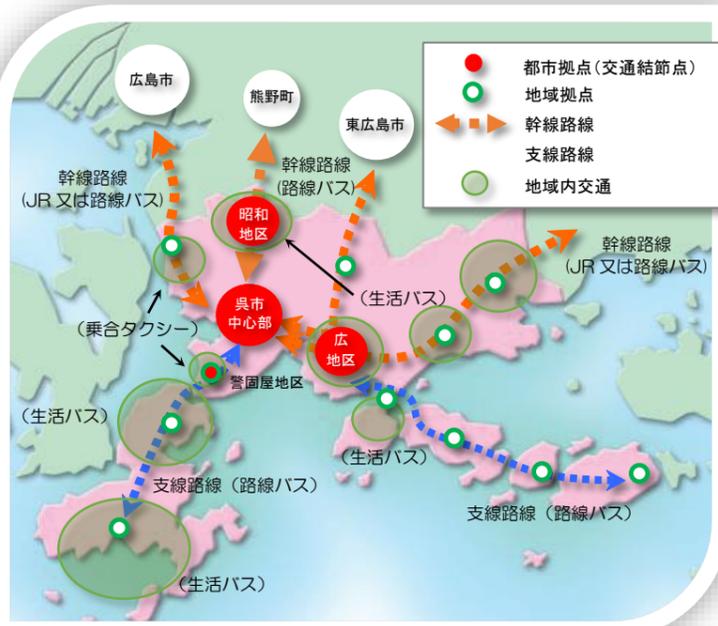
【基本理念】都市の発展と市民の日常生活を支える持続可能な公共交通

～人口減少や少子高齢化に対応した、地域の活力向上と市民が便利に安心して暮らせるまちづくりを支える「持続可能な公共交通」を目指します。～



施策推進の柱と主な事業展開

- ア みんなで守り、育み、利用する公共交通の意識づくりに向けた施策**
- 公共交通に関する意見交換会の開催や、出前トーク等を活用し、市民ニーズの継続的な把握に努めます。
 - 情報の共有化による「公共交通を守り、育み、利用する」意識の醸成と利用促進を図るため、広報誌やホームページを活用し、公共交通情報を積極的に発信します。
- イ 持続可能な公共交通体系の構築に向けた施策**
- 各公共交通と個々のニーズに基づくタクシーや自転車等との役割分担による効率的な運行を目指します。
 - 便利で、無駄の少ない公共交通の実現に向け、路線維持基準等に基づくバス路線の再編・見直しを進めます。



- ウ コンパクトネットワークの実現に向けた施策**
- 便利で快適な移動空間を確保するため、都市拠点と地域拠点をつなぐ乗換拠点となる交通結節点の整備を目指します。
 - 公共交通情報を利用者に分かりやすく提供するため、バスロケーションシステムの整備等を進めます。
- エ バリアフリーや環境に配慮した施策**
- 高齢者や障害者等の移動の円滑化を図るため、ノンステップバスの計画的な導入を進めます。
 - 環境に優しい公共交通を目指すため、エコ通勤やパーク＆ライドの普及・推進に努めます。

【持続可能な公共交通体系（イメージ）】